

令和 7 年度

防火衣一式購入事業仕様書



うるま市消防本部

## 令和7年度 防火衣一式購入事業仕様書（うるま市消防本部）

1. 職員用防火衣概要-----	1
1) 目的・概要・表示・その他-----	1
2. 防火衣上下-----	2～14
1) 総則・概要・性能・品質保証・提出書類・疑義-----	2
2) 仕様（上衣/ズボン）-----	3～10
3) サイズ表-----	11
4) 【別図1～3】-----	12～14
3. 防火帽・しころ-----	15～22
1) 総則・材料等・規格・構造・その他-----	15～20
2) 【図1】-----	21
3) しころ仕様-----	22
4. 防火靴-----	23～25
1) 総則・概要・性能・品質保証・疑義-----	23
2) 仕様・外観図-----	24～25
5. 墜落制止用器具-----	26～32
1) 適用範囲・表示・仕様-----	26
2) 構造・性能-----	27～32
6. 防火手袋-----	33～36
1) 総則・材質/規格・構造-----	33
2) 仕様・その他-----	34
3) 材料及び規格一覧-----	35
4) 【別図】・寸法表-----	36
7. ヘッドライト及び防火服収納バッグ-----	37～38
1) 総則・条件・参考型式・規格・色・仕様-----	37
8. ハンドライト-----	38
1) 総則-----	38
9. 数量【別表1】【別表2】-----	39～40
2. 消防団用防火衣概要-----	41～43
1) 総則・規格-----	41～42
2) その他-----	43
3) 数量【別表】-----	43

## 1. 目的

この仕様書は、うるま市消防本部（以下、「当本部」）が令和7年度に整備する個人防火装備一式（防火衣等）について必要な事項を定めることを目的とする。

## 2. 概要

防火衣は、ハーフコート型（ショート丈）上衣及びサスペンダー付きズボンで構成された上下式とし、防火服の国際標準規格 ISO11999-3（タイプ2）及び総務省消防庁「消防隊員用個人防火装備に係るガイドライン（令和4年3月改定）」（以下「ガイドライン」という。）に準拠するものとする。

防火手袋・防火靴・防火帽・防火フードについても同様とする。

## 3. 表示

- （1）防火衣上下・防火手袋・防火フードに、「令和7年度 石油貯蔵施設立地対策等交付金施設」と綿布または同等品の布で表示すること。
- （2）防火靴・防火帽・墜落制止用器具には、「令和7年度 石油貯蔵施設立地対策等交付金施設」と強固なシール等で表示すること。

## 4. その他

- （1）ワッペン及び各ポケット等の取付け位置、寸法、所属内訳については、契約後に確認すること。
- （2）受注者は、製造に先立ち、製造用見本一組を作成し、受注者の承諾を得たうえで製造を開始すること。
- （3）製造用見本を提出時においても、双方で協議、調整のうえ、仕様細部の変更を行うに至った場合には対応すること。
- （4）防火衣上衣、ズボンともメーカーの寸法に基づく寸法を基本とするが、受注者は対象職員の寸法を行った上で、メーカーが規格する寸法外のサイズについても、別途製造し対応すること。
- （5）採寸を行う際は、メーカーの寸法に基づく試着用見本を全サイズ用意すること。
- （6）その他、防火衣の使用に際し、当然必要となる保冷剤等の付属品についても付属させること。

## 5. 数量

数量については、【別表1】【別表2】のとおりとする。

## < 防火衣上下について >

### 1. 総則

#### (1) 目的・適用範囲

この仕様書は、当本部が購入する消防隊員用個人防火装備品（防火衣上下）について、必要な事項を定める。

#### (2) 概要

この防火装備品は、火災発生建物への屋内進入を実施する消防隊員がより安全に消火活動等の目的を行うために求められる機能を有するとともに、運動性、快適性等隊員の活動に適したものとする。

#### (3) 性能

この防火装備品は、ISO11999 規格等を基準とし、総務省消防庁通知（令和 4 年 4 月 15 日付消防消第 113 号）により示された「消防隊員用個人防火装備に係るガイドライン（改訂版）」に定める性能等に適合するものとする。

#### (4) 品質保証

この防火装備品の品質保証について、納入日より 1 年間は品質に著しい不良が認められた場合、契約者負担で修理または交換することとする。ただし、使用方法、使用環境、保管方法に対し適切でない条件での破損等についてはこの範囲に含まない。

#### (5) 提出書類等

納品時に「試験証明書」及び「原反出荷引受書」または同等以上の証明書を提出すること。

#### (6) 数量

数量については、【別表 1】のとおりとする。

#### (7) 疑義

この仕様書の解釈について疑義を生じた場合は、速やかに当本部と協議することとし、受注者の一方的な解釈によってはならない。

## 2. 防火衣仕様

この防火衣はハーフコート（ショート丈）上衣及びサスペンダー付下衣で構成された上下型であり、活動性・快適性はもとより空気層の担保や前方に屈んだ際にも十分にオーバーラップを確保した形状とする。また表地の素材は火炎曝露後も炭化による割れや穴あきが生じにくく、しなやかさを保つPBI繊維とアラミド繊維の最適な構成の生地とする。

### (1) 生地材料

#### (ア) 表生地（上衣・下衣）

種類	防炎マイクロリップストップ パラ系アラミド繊維の牽切糸を芯にポリベンゾイミダゾール及びアラミド繊維（メタ系・パラ系）をカバリングした2重構造糸からなる織物
組織	平織（マイクロリップストップ）
構成率	ポリベンゾイミダゾール（PBI繊維） 40% アラミド繊維（メタ系・パラ系） 60%
重量	235 g/m <sup>2</sup> （標準）
引張強度	経 2200N以上 緯 2200N以上
引裂強力	経 220N以上 緯 220N以上
色相	ベージュ/オリーブグリーン（配色）

#### (イ) 中衣生地

上下透湿防水層	種類	生地裏面に透湿防水フィルム（PTFEフィルム）をラミネート
	構成率	メタ系芳香族ポリアミド 84.5% パラ系芳香族ポリアミド 15.0% 導電性繊維 0.5%
	重量	120 g/m <sup>2</sup>
	耐水圧	294 kpa以上
	種類	16枚ボックス変わり織
上衣防熱層	構成率	メタ系芳香族ポリアミド 84.5% パラ系芳香族ポリアミド 15.0% 導電性繊維 0.5%
	重量	190 g/m <sup>2</sup>
	種類	1/1平織
	構成率	メタ系芳香族ポリアミド 84.5% パラ系芳香族ポリアミド 15.0% 導電性繊維 0.5%
下衣防熱層	重量	120 g/m <sup>2</sup>

(ウ) 主な副材料

縫製糸	表生地同系色（標準）及び赤色（門止め）タ系アラミド 100%
補強生地	アラシールド（黒）パラ系アラミド 生地に高分子化合物をコーティング
反射テープ	3M # 5 6 8 7 蛍光イエロー 7 6 ミリ幅および 50 ミリ幅
面ファスナー	黒色（耐熱性） 2 5 ミリ幅、3 8 ミリ幅、5 0 ミリ幅
ファスナー	No.10C：上衣前合せ（紺）・No.5C：脇線裾（紺）、インナー（赤）
袖口リブ	アラミド繊維 紺色
PP テープ	黒色：10 ミリ幅、38 ミリ幅・赤色：25 ミリ幅（フラップ 持出し布）
背文字	3M # 8787 イエロー / # 5807 シルバー
バイアステープ	紺色 40 ミリ幅
止水テープ	白色 20 ミリ幅
ドット釦	シルバー 7050 15 ミリ
ラベル	織マーク、氏名片布、警告ラベル、品質表示、サイズ表示等
その他	D 環、テープエンド、丸ハトメ（6 ミリ）、シャーリングゴム等

(2) 縫製条件

- (ア) 各部の縫い合わせは上下糸のつれ、たるみ、飛びのないこと。
- (イ) 縫い始め、縫い終わりは、縫い止め及び返し縫いを完全にすること。
- (ウ) 必要とする箇所には門止めを入れること。

(3) 全体仕様

上 衣	折襟、前中心オープンファスナー、チンストラップ付き、面ファスナー止めアウトフラップ（前立て）付き、身頃は 10 枚はぎ、左右上衿及び胸にマイクハンガー、左右胸ポケット、脇部にシャーリング、右胸ポケット下にモールシステム、左胸ポケット下に D 環付、後身頃背及び裾及び前立てに指定反射文字取付（イエロー/シルバー）、左右腰部にフラップ付アウトポケット、後身頃はテールドボトム、マチ付き 3 枚切り替え袖、要部補強布（肩、袖口、前身頃裾裏）、インナーに 3 か所ポケット付き、インナー着脱式
下 衣	ベルトループ付き、ウエスト調整ベルト付き、両脇アウトポケット付き、裾脇線ファスナー付き、裾部分アジャスター付き、サスペンダー付き、要部補強布（前立て、膝、ポケット下部、裾口、サスペンダーループ、内くるぶし）、両脇ポケット前方部にループ付き、インナー着脱式

(4) 仕様図面

別図 1, 2 参照

### 3 縫製仕様

#### (1) 上衣 (外衣)

##### (ア) 襟

- a 表裏に表生地を使用し、襟の中に透湿防水層を挟み水の浸入を防ぐ構造とする。
- b 地襟側に強度を保つため、ジグザグステッチを掛ける。
- c 襟裏面に2か所面ファスナーを付ける。
- e 左右上襟にマイクハンガーを取り付ける。

##### (イ) 襟タブ (チンストラップ)

- a 襟の前中心にあご、首などの保護に襟タブを取り付ける。
- b タブの周囲に6mm幅のステッチをかけ、タブ端の両面に面ファスナーを付ける。
- c 水の侵入を防ぐため、内部に透湿防水層を入れる構造とする。

##### (ウ) 前身頃

- a 左右各2枚、両脇両肩各1枚の8枚裁ちとし、前中心はオープンファスナー止めとする。
- b ファスナーの上におおい布 (前立て) を付ける。おおい布の中に透湿防水層を入れ、水の浸入を防ぐ構造とし、面ファスナー止めとする。
- c 右前面ファスナー下端部分に、ファスナー破損防止と、開閉しやすくするための、持ち出し布を付ける。
- d ポケット下部裏の身頃見返し裾には補強布を取り付ける。

##### (エ) シャーリング

- a 両脇のウエスト位置裏側にギャザーゴムを取付け、着用性 (フィット感) が良くなる構造とする

##### (オ) 肩ヨーク

- a 各サイズ毎に合わせた補強布は本体との間にフェルト (緩衝材) を挟みダブルステッチで縫着する。

##### (カ) マイクハンガー

- a 左右の胸に幅20ミリ長さ100ミリを各1個縫い付け、両端及び中央上部に閉止めを

する。

(キ)左右胸ポケット

- a フラップは1枚の両開き中心止めでアンテナが出る構造とし、面ファスナー止めとする。
- b ポケットは口幅115mm、幅50mm程度のマチを付け、底に水抜き用のハトメ穴1個を設ける。ポケット口の両端には門止めをする。
- c ポケット口より20mm程下がった所に黒色の幅10mmのPPテープを縫い付ける。

(ク) D環

- a 左胸ポケット下部に共生地を使用してD環を取り付ける。

(ケ) モールシステム

- a 右胸ポケット下部に共生地を使用してモールシステムを取り付ける。

(コ)アウトポケット

- a 左右の前身頃裾にフラップ付きマチ付アウトポケットを取付け、面ファスナー止めとする。フラップ及びポケット口の両端には門止めをする。
- b アウトポケットの底部には水抜き用ハトメを2箇所設ける。

(サ) 袖

- a マチ付き3枚切り替え袖とし、脇部一周にマチを付け腕の動き易い形状とする。切り替え線部分には、6mm幅ステッチをかける。
- b 動きにテンションのかかりやすい脇及び肘部分はバイヤス縫いとする。
- c 袖口には、補強布を取り付ける。

(シ) 後身頃

- a 上下2枚裁ちで裾はテールドボトム型とし、前へ屈んだ際にも十分にオーバーラップを確保できる形状とする。上下の切り替え、脇線の裾、身頃のつなぎ目には返し縫いを十分にかける。

(ス)襟吊り

- a 襟の下中心に共生地の襟吊りを強固に縫い付け、襟吊り幅分のみ襟縫い代側に門止めする。幅の両端にコバステッチをかける。

(セ)反射テープ (トランスファーフィルム)

a 反射テープを指定位置に取り付ける。(図参照)。

(ソ) 背文字

a 背部上段にはイエロー反射文字にて「沖縄県」、下段には「うるま市消防」と配置。

b 後身頃裾にはシルバー反射文字にて「URUMA FIRE DEPT.」と入れる。

c 防火服表面前立てにはイエロー反射文字にて「URUMA FIRE DEPT.」と入れる。

※なお、文字のフォントおよびフォントサイズは別途落札後の協議とする。

(2) 上衣 (內衣)

透湿防水層面、縫い目の裏面には必要な部分全てに止水テープを貼る。

(ア) 前身頃

a 外側に透湿防水層、内側に防熱層を合わせ、ライナー取りつけ用箇所襟ぐり  
前端、裾にバイアステープ始末をする。

b バイアステープ始末をした前端と襟ぐりにライナー取り付け用のオープンフ  
ァスナー 1 本を付ける。

c 防熱層面のアームホール下にアウトポケットを取り付ける。ポケット口は  
前中心側とし、面ファスナー止めとする。

(イ) 後身頃

a 外側に透湿防水層、内側に防熱層を合わせる。

b 後身頃防熱層側上部の裏面に緩衝材を挿入し、ステッチで押さえ背中を守る構  
造とする。

c 後中心防熱層面にアウトポケットを取り付け、ポケット口は面ファスナー止め  
とする。

(ウ) 裾

a 透湿防水層と防熱層を合わせ、バイアステープ始末とする。

b 後身頃の外衣に沿った形とし、後中心を面ファスナー止めとする。

(エ) 袖

a マチ付き 2 枚切り替えとし、6 mmステッチで押さえ、透湿防水層と防熱層を合

わせる。

b 透湿防水層側の袖口にリブを付け、外衣とは面ファスナー止めとする。

(オ) オープン ファスナー

a インナー着脱式とし、前身頃見返し端とインナーの前端を合わせる。

b ファスナーのスライダーは、左前見返し側に取り付ける。

(カ) 表示

a サイズ表示、絵表示、警告ラベル、氏名片布を指定位置に付ける。

b 「令和7年度 石油貯蔵施設立地対策等交付金施設」と綿布または同等品の布で表示すること。

### (3) ズボン (外衣)

(ア) ベルト通し

a 前身頃の左右に各1本、後身頃の左右に各2本の計6本を取り付ける。

b 幅25mm、内径80mm程度のベルト通しを付ける。

(イ) 前立て

a 左上前に持ち出しを付け、中には透湿防水層を芯地として入れ、面ファスナー止めとする。前立てあき止まり位置に門止めをする。

b 前立てのひらきを抑えるため、持ち出し部分にドット釦を取り付ける。

c 墜落制止用器具のバックルが当たる部分に補強布を取り付ける。

(ウ) 腰部

a ウエストを絞る為の調整ベルトを取り付ける。

(エ) 膝

a 前膝部分を切り替えし、補強布は本体との間にフェルト（緩衝材）を挟みダブルステッチで強固にする。

(オ) 脇ファスナー

a 両脇線の膝から裾までファスナーあきとする。

(カ)後身頃

- a 後身頃上部に尻線から脇にかけて切り替え、尻廻り部分はバイアス縫いとし、ゆとりある構造とする。

(キ)脇アウトポケット

- a 両脇にフラップ付きアウトポケットを付ける。後ろ側のみマチ付きとする。
- b フラップは芯入りで面ファスナー止めとし、周囲にステッチを入れる。
- c アウトポケットの下部は、表生地と補強布の2枚重ねとした貼りポケットを設け、水抜き用ハトメ穴を取り付ける。
- d ポケット口両端には門止めをする。
- e 左右ポケット前方部には表生地で20ミリの幅の多目的ループ（縦方向）を取り付ける。

(ク) 反射テープ（トランスファーフィルム）

- a 反射テープを指定位置に取り付ける。（図参照）。

(ケ) 裾アジャスター

- a 裾部分には面ファスナーにて、絞り調整可能なアジャスターを付ける。

(コ) 裾口・内くるぶし

- a 裾口及び内くるぶしには補強布を取り付ける。

(サ) サスペンダーループ

- a 表生地と補強布の2枚重ねとしたサスペンダー付けループをズボン前後4箇所に取り付ける。
- b サスペンダーの取付け金具は前後ワンタッチ式金具であること。

(シ) 表示

- a サイズ表示、絵表示、警告ラベル、氏名片布を指定位置に付ける。

(4) ズボン（內衣）

透湿防水層面、縫い目の裏面には全て止水テープを貼る。

(ア) 腰回り

- a インナーの前後身頃は別々に縫い合わせておく。
- b インナー腰部は、オープンファスナー着脱式とし、外衣ベルト見返しに縫い付ける。

(イ) 前立て

- a 前立て裏部にインナーを面ファスナー止めとする。

(ウ) 膝

- a 透湿防水層共に脇線、内股線側からふくらみを付けた構造とする。
- b 後ろ膝裏位置は切り替え、コバステッチをかける。

(エ) 裾・脇あき

- a 脇部ファスナー裏は、3箇所をドット釦止めとする。

(オ) 表示

- a サイズ表示、絵表示、警告ラベル、氏名片布を指定位置に付ける。
- b 「令和7年度 石油貯蔵施設立地対策等交付金施設」と綿布または同等品の布で表示すること。

(5) 付属

(ア) 墜落制止用器具に取り付ける「ペットボトル入れ難燃収納袋（蓋付き面ファスナー止め）」を付属させること。

- a 素材は防火衣に準じ、内部にはアルミ基布を使用すること。
- b 上衣同様の反射材を使用すること。
- c 寸法はペットボトル2本分とする。（別途協議）

(イ) ガイドラインに準拠する防火フードを付属すること。

- a 放射熱による火傷から顔面等を保護する構成とする。
- b 防火フードに、「令和7年度 石油貯蔵施設立地対策等交付金施設」と綿布または同等品の布で表示すること。

(ウ) 内側背部中央上部及び内側両脇部に冷却ポケットを取付け、冷却剤を3個付属すること。

(エ) 防火服左右上腕取付用ワッペン

(各ワッペン等は再帰性反射性能且つ防炎性能を有すること。)

- a 角形と横書きで右に「各所属」左に「名字」とする。
- b ワッペンの寸法は75mm×150mmとする。
- c 色相については【別図3】のとおりとする。

#### 4.サイズ（上衣）

上衣	前身丈	着丈	胸囲	肩幅	袖丈	袖口
S	49	70	117	51	53	30
M	52	73	122	52	55	31
L	55	76	127	53	57	32
L L	58	79	132	54	59	33
3 L	61	82	137	55	61	34
4 L	64	85	142	56	63	34
5 L	67	88	147	57	65	35

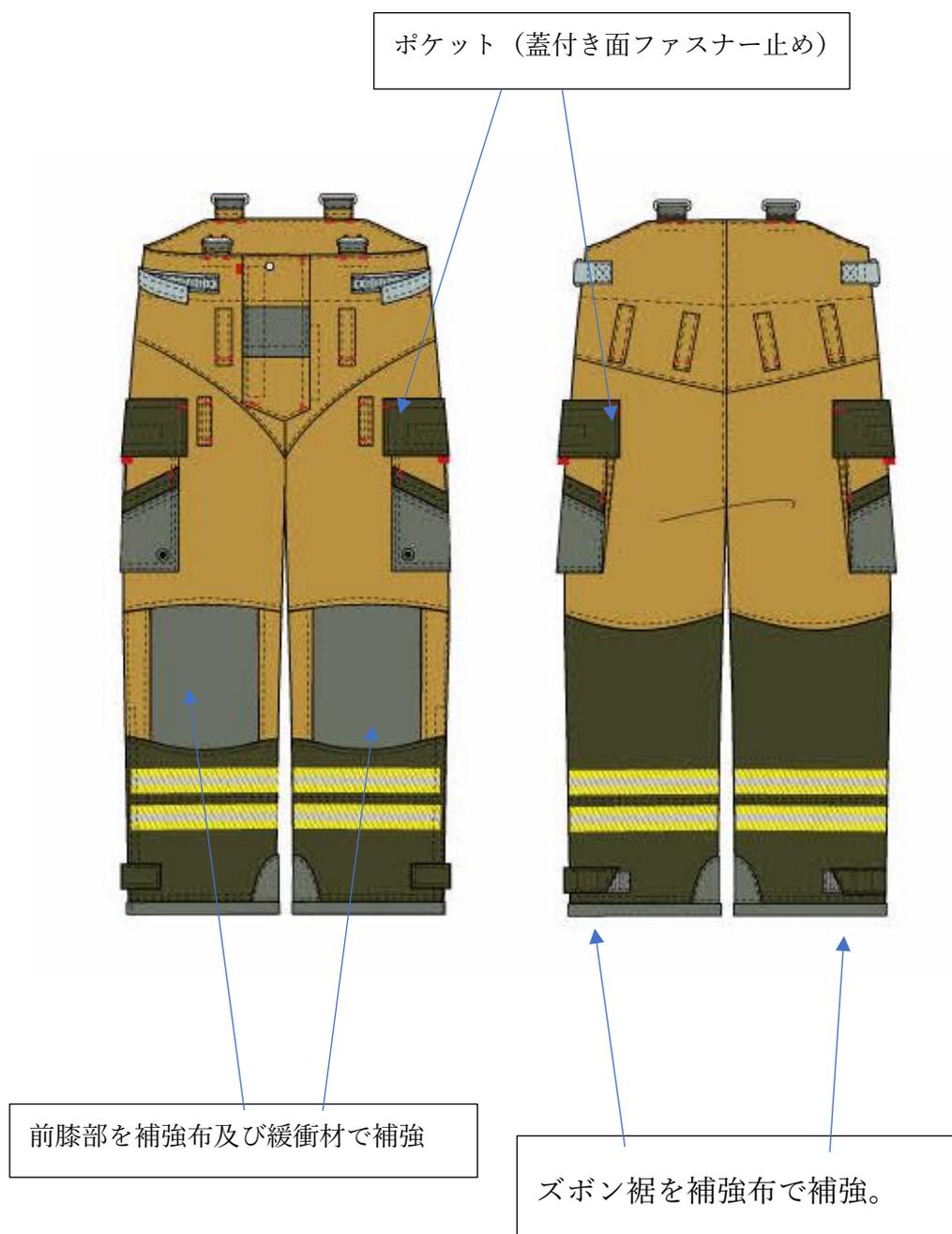
#### 4.サイズ（ズボン）：股下のピッチは4cm刻みとする。

下衣		総丈	股下	股上	腰回り
S	A	95	66	29	65～75
	B	99	70		
	C	103	74		
M	A	96	66	30	75～85
	B	100	70		
	C	104	74		
L	B	101	70	31	85～95
	C	105	74		
	D	109	78		
L L	B	102	70	32	95～105
	C	106	74		
	D	110	78		
3 L	B	103	70	33	105～115
	C	107	74		
	D	111	78		
4 L	B	104	70	34	115～125
	C	108	74		
	D	112	78		

別図 1



別図 2



別図3

ワッペン

75 mm



150 mm

ネーム

75 mm



150 mm

## < 防火帽・しころについて >

### 1. 総則

この仕様書はうるま市消防本部（以下、「当本部」）が購入する消防活動用防火帽であり、総務省消防庁発行の消防隊員用個人防火装備に係るガイドライン（改訂版）に準拠し、労働安全衛生法（昭和47年6月8日法律第57号。以下「労安法」とする。）に基づく保護帽の規格と日本工業規格に定められている産業用ヘルメット（JIS T 8131）に適合するものとする。製造・組立については日本工業規格表示認定工場（JIS認定工場）で行うものとする。

### 2. 材料等

材料等は表1のとおりとする。

### 3. 規格

超軽量で自己消火性を有し、耐炎・耐熱性、機械的強度性能、電気的特性等を満たしたもので、規格・試験方法等については、表2のとおりとする。

### 4. 構造

#### (1) 概要

この防火帽は超軽量であり、銀色の帽体表面に指定の消防署用徽章【特殊樹脂製】を強固に貼り付け、左右に消防本部名を入れたものとする。帽体内側には頭部に伝わる衝撃の運動エネルギーを緩和する耐熱衝撃吸収ライナーを取り付け、さらにヘッドバンド等の装着体及び可動式の顔面保護板を装備する。帽体下部の外周部にしころを取り付けられ、さらに、左右のドットボタンを利用した、ヘッドランプ取付用ベルトを付属するものとする。また、物体の飛来または落下による危険及び墜落による危険から装着者の頭部に伝わる衝撃エネルギーを緩和する構造及び性能を有し、頭部の動きによるぐらつきが少なく、装着中に不快感がないこととする。

#### (2) 形状等

##### ア 帽体

##### (ア) 本体

- a 概要図のとおりとする。
- b 表面は滑らかで、堅牢であるものとする。
- c 帽体表面の塗装は銀色焼き付け塗装、容易に剥離変色しないこととする。

##### (イ) 周章（デザイン）

帽体周囲に赤色テープを形状に合わせ貼り付けること。

(ウ) 徽章等

帽体前面中央に、特殊樹脂製消防章を貼り付ける。

(エ) 消防本部名表示

帽体左右には、黒色文字を指定の寸法にて「うるま市消防」と表示する。

(オ) 市章

帽体左右上部には、「うるま市の市章」を表示する。(図1参照)

(カ) 掛け金具

帽体後部中央に半月環状の掛け金具を取り付けること。

イ 装着体

(ア) ハンモック

かぶり深さを調整できる。補助ハンモック付きとする。

(イ) ヘッドバンド

ダイヤルラチェット方式により、頭回りに応じて、概ね53cm～63cmまでの範囲で、装着時にも容易に調節が可能で、フィット感も高い構造とする。

(ウ) しころ取付板

a しころ取付用として、帽体に取り付けてあること。

b しころ取付板には、押しホック（オス）を6個取り付けるものとする。

(エ) 頭頂パッド

頭部全体にクッション性、吸水性、耐久性及び抗菌性に優れた素材を内装体全体に着脱可能な方法で取り付けること。

ウ あご紐

(ア) あご紐は耐炎・耐熱性に優れ、片側を耐熱ワンタッチバックルで着脱できるものとし、反対側を二重リングで締め付け、容易に着脱ができ、ぐらつきのないように確実に締められるものとする。

(イ) 二重リングには、あご紐と同素材を用いた、つまみを取り付け、締め付けたあご紐を、スムーズに開放できる構造とする。

エ 装着体固定リベット及びヘッドランプ取付用押しホック

(ア) 装着した状態で、装着体固定リベットと装着者の頭部が直接接触しないものとする。

(イ) 左右前方の内装固定用リベットを利用し、ヘッドランプ取付用押しホック（オス）を取付ける。

オ 顔面保護板（シールド）

- （ア） 前面からの注水に対し顔面を保護できる構造とし、視界の妨げとなるゆがみ等がないこととする。
- （イ） 顔面保護板を帽体内に収納できる構造とする。
- （ウ） 帽体から円滑に引き出せ、引き出した状態でぐらつきを防止するロック機構をもうけること。
- （エ） 下側端面はアクリル系エラストマー製の縁ゴムで保護すること。
- （オ） 収納した状態で、中央部の下がりとは10mm以下とし、両端は視野の障害とならないこと。

カ ヘッドランプ取付ベルト

- （ア） 幅20mmの難燃ナイロンテープと同サイズのアジャスターを使用した、サイズ調製可能なヘッドランプ取付ベルトを、2本1組として付属する。

キ 防火帽本体後部へ視認性確保用メディアの貼り付け

- （ア） 防火帽本体後部に、視認性確保用のメディアを固定する。
- （イ） メディアの素材に関しては、当本部の指示を仰ぐこと。

ク 左右側面に楕円形の階級章(反射タイプ)を両面ファスナーで取り付けること。

## 5. その他

- （1） 詳細については、見本のおりとする。なお、不明な点がある場合は、担当者と打ち合わせをすること。
- （2） 契約業者は、試作品を作成し当本部の指示を仰ぐこと。
- （3） 産業財産権（特許及び実用新案等）に抵触する問題等が生じた場合は、受注者側において、これらの問題に対し、責任を持って解決することとする。
- （4） 防火帽（本体）の色については、別途協議とする。
- （5） 防火帽には、「令和7年度 石油貯蔵施設立地対策等交付金施設」と強固なシール等で表示すること。

表 1

防火帽の材料等一覧

名 称		内 容
帽 体		ガラス繊維とPBO繊維を基材としたポリエステル樹脂による超軽量強化プラスチック製（ハイブリット構造）
耐熱衝撃吸収ライナー		耐熱性発泡スチロールで、衝撃吸収性能を有するもの
着 装 体	ハンモック	ポリエチレン成形品、白濁色
	補助ハンモック	
	しころ取付板	ポリエチレンシート材
	ヘッドバンド	前頭部：ポリエチレン成形品 後頭部（ラチェット部）：ナイロンほか
	補助ハンモック調整ひも	ポリエステルまたはナイロン製、白色、350mm以上
装着体固定リベット		防食性を有する金属性
あご紐		耐炎性アラミド繊維を使用、幅19mm厚さ1.5mm
ワンタッチバックル		難燃ポリアセタール製、黒色
あご紐二重リング		防食性を有する金属性
顔面保護板		ポリカーボネート板（両面をハードコートしたもの）、無色透明 縦（有効長） 138mm以上 横（周長） 240mm以上 厚さ 1.5mm以上
重 量		765g以下（防火帽のみ）

表 2

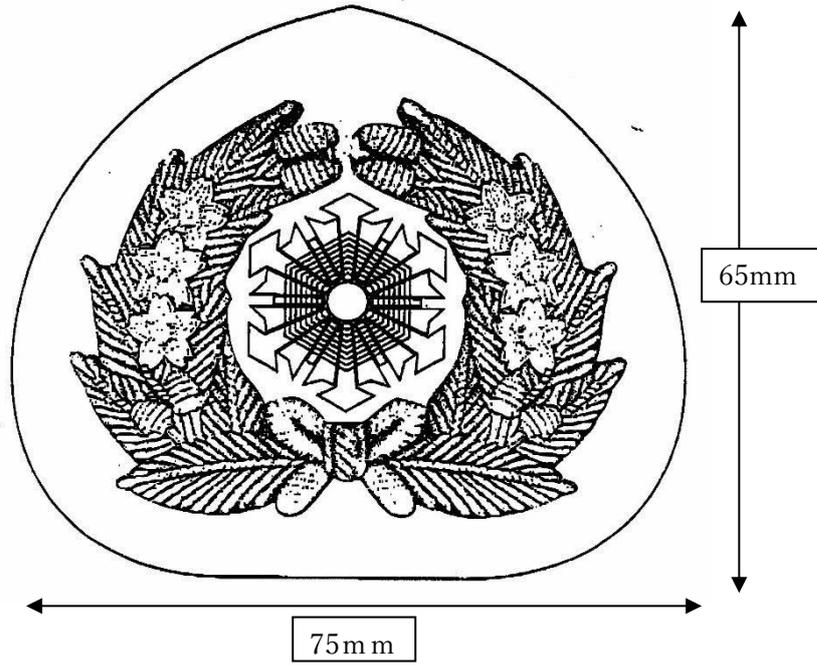
防火帽の規格等一覧

項 目	規 格 等	試験方法
【耐炎性】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帽体素材・シールドの残炎及び残光時間&lt;2秒</li> <li>・ 帽体塗装部分の残炎及び残光時間&lt;5秒</li> </ul>	ISO1999-5 タイプ1 JIS T 8131, 6.8

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あご紐の残炎及び残じん時間&lt;2秒</li> <li>・分離（帽体・シールド）、溶融、滴下不可</li> </ul>	
【耐熱性】	<p>（熱流束 40kw/m<sup>2</sup>・暴露時間 180 秒） （熱風循環炉 180°C×5 分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分離、溶融、滴下、発火不可</li> <li>・可動部品が機能すること （あご紐開閉装置、シールド等）</li> <li>・著しい変形、穴あき、亀裂がないこと</li> </ul>	<p>ISO1999-5 タイプ 1 JIS T 8023 : 2006</p>
【衝撃吸収性】	<p>（半球形ストライカ半径 50 mm、衝撃エネルギー - 123J にて前処理後 1 分以内にストライカを 5 箇所へ落下）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頭部衝撃荷重 ≤ 15kN</li> </ul>	<p>EN13087-2:2012 5, 2 JIS T 8131 : 2015 6</p>
【耐貫通性】	<p>ストライカと検知部（人頭模型）に接触がないこと</p>	<p>ISO16073:2011, 7. 6 JIS T 8131 : 2015 6</p>
【耐側圧性】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期圧力 30N 時の側面変形寸法に対し、630N における最大変形 ≤ 40 mm</li> <li>・2 度目の 30N における残留変形 ≤ 15 mm</li> </ul>	<p>ISO1999-5 タイプ 1 JIS T 8131 : 2015 6</p>
【保持装置強さ】	<p>（初期荷重 30N、中間荷重 250N）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・250N の負荷において全体最大の伸び ≤ 20 mm、あご紐の最小幅 ≤ 15 mm</li> </ul>	<p>ISO1999-5 タイプ 1 ISO13087-5:2012, 5</p>
【質量・運動性能】	<p>1, 500 g 以下（しころ、徽章等を含む）</p>	
【電気的特性】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漏電電流 ≤ 1. 2mA</li> <li>・帽体に破損なし</li> </ul>	<p>ISO1999-5 タイプ 1 EN13087-8:2000, 5. 2</p>

#### 防火帽の仕様等

部品名		仕様等
帽体	消防本部名	着帽して左右適宜の位置に「うるま市消防」（黒文字）と文字を入れる
	周章	赤スコッチテープ（デザイン）
	前章	特殊樹脂製 消防署章（高さ 65 mm、幅 75 mm）見本参照
	掛け金具	黄銅製（ニッケルメッキ）または同等の強度及び防食性を有する金属製
ベルト	ヘッドランプ	ナイロンテープ（20 mm 幅）
	取付用	YKK LA-20S（20 mm 幅用）
	ベルト	ドットボタン モリト SS7050 ステンレス製（ゲンコ及びバネ）



着装体略図

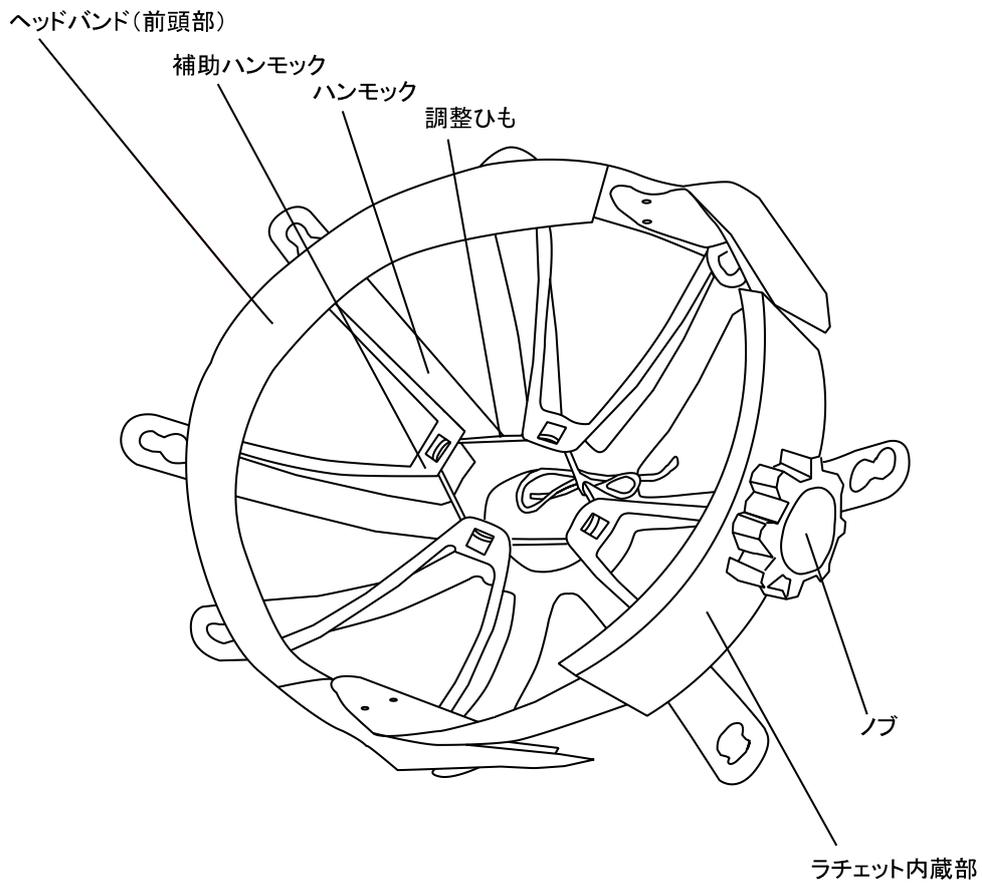
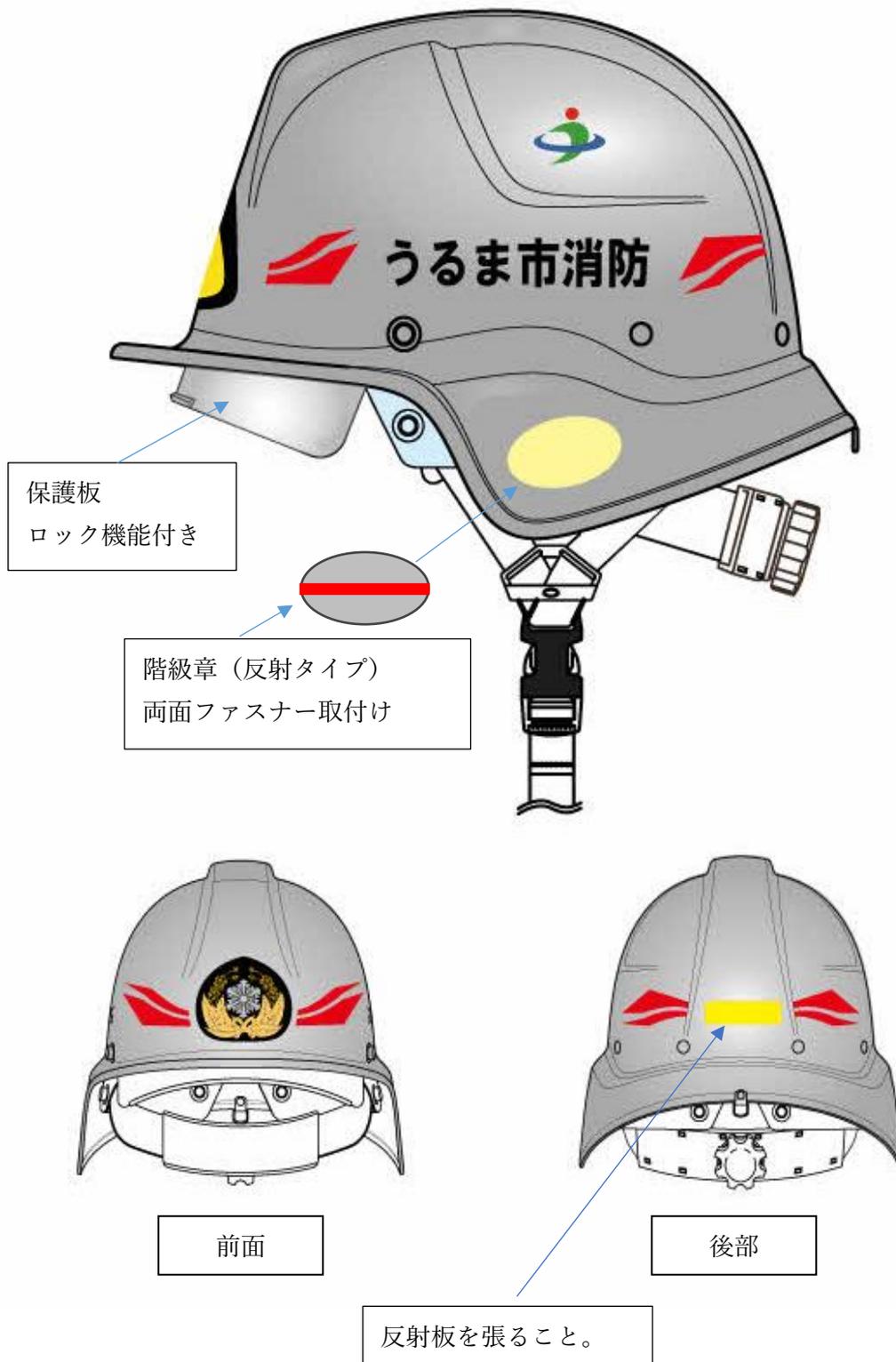


図 1



## 6. しころの仕様について

### (1) 使用素材

表素材は防火服に準じ、中間には透湿防水布を使用する。

### (2) 縫製

ア 各部の縫い合わせは、上下糸のほつれ、たるみのないこと。

イ しころの丈は中央部分で200mmとする。

ウ 縫製に際し、縫い飛び、縫いはずれが無いこと。

エ 縫い始め、縫い終わりは、縫い止め及び返し縫いを充分に行う。

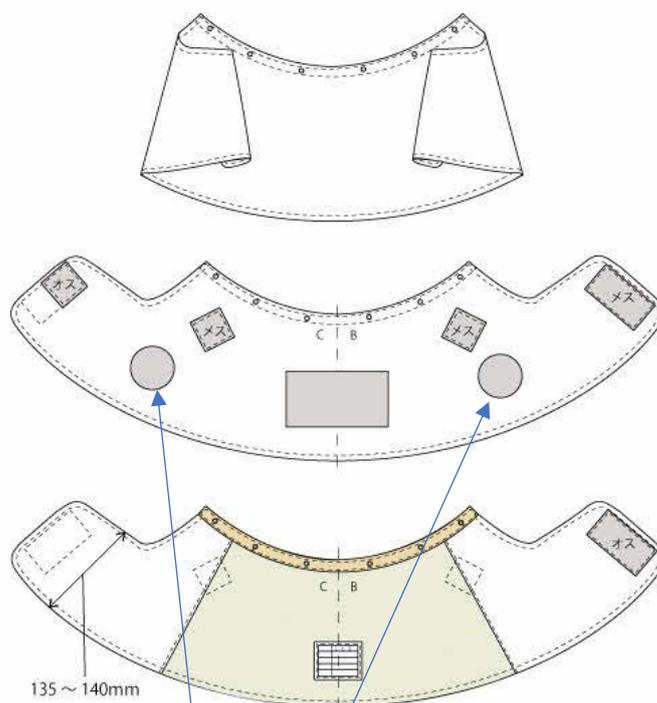
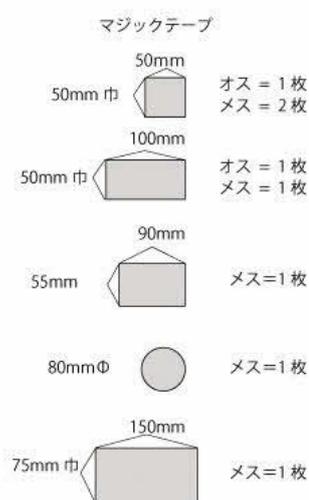
オ 6点止めのドットボタンは、専用機で留め、容易に剥がれないものとする。

カ 各部の仕様は、仕様図に基づき、誠実に縫製すること。

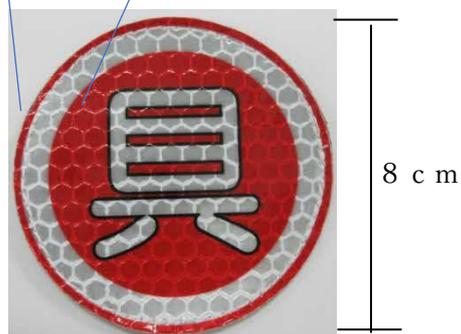
キ 各あわせ箇所は仕様図のサイズにて、難燃面ファスナーを使用する。

ク 前あわせ折り返しは2つ巻きとし、50×100mm幅マジックテープ止とすること。

### (3) しころ仕様図



しころ用ワッペン



## < 防火靴について >

### 1. 総則

#### (1) 目的

この仕様書は、うるま市消防本部（以下、当本部という）が購入する消防隊員用個人防火長靴（以下、防火長靴という）について、必要な事項を定める。

#### (2) 概要

この防火長靴は、火災発生建物への屋内進入を実施する消防隊員がより安全に消火活動等の目的を行うために求められる機能を有するとともに、運動性、快適性等隊員の活動に適したものとする。

#### (3) 防火長靴の性能

この防火長靴は EN 15090:2012 欧州消防隊員用防火長靴性能基準を取得したものであり、消火活動に適した機能と強度を有するとともに、傷、斑点、汚れ及びその他著しく外観や機能を損なうような欠点のないものとする。

#### (4) 防火長靴の品質保証

この防火長靴の品質保証について、納入日より1年間は品質に著しい不良が認められた場合、契約者負担で修理または交換することとする。ただし、使用方法、使用環境、保管方法に対し適切でない条件下での破損等についてはこの範囲に含まない。

#### (5) 疑義

この仕様書の解釈について疑義を生じた場合は、速やかに当本部と協議することとし、受注者の一方的な解釈によってはならない。

### 2. 仕様

#### (1) 防火長靴の仕様

1) EN 15090:2012 欧州消防隊員用防火長靴性能基準を取得したものであること。

2) EN ISO 17249:2014 クラス 2(24m/s)に準拠したチェーンソー切断防止機能を有したものであること。

3) 表面はPBI生地と耐火性・耐水性マイクロファイバーを使用し、EN388 耐切削性レベル5に準拠するものとする。またチェーンソーによる切り傷を防ぐケブラー中層入りとする。

- 4) 表面には防水加工を施し、水の侵入を防ぎ表面を保護すること。
- 5) 裏地には透湿防水性に優れたゴアテックスのクロステックメンブレンを使用すること。
- 6) つま先には PC-PBT 樹脂製の先芯を使用すること。先芯は接着剤で取り付けるものではなく注入されているもので、防火長靴を着用中に取り外されたり接着が外れたりしないものであること。
- 7) 中敷きは取り外し可能なものであること。通気性、衝撃吸収に優れ、汗による湿気を取り除くものとする。
- 8) 靴底には非金属製の踏み抜き防止板を使用すること。
- 9) 靴底にはニトリルゴム製の帯電防止外装を使用し、グリップ力と耐滑性を向上させるための滑り止めを施すこと。また泥が付着しにくく、水が表面に残らないような設計とすること。
- 10) 靴底は優れた耐熱性を持ち、急激な温度変化に 1 時間以上耐えることが出来るものとする。
- 11) 側面には 3M 製の耐火反射材とケブラー糸を使用すること。
- 12) リールを回転させて巻き取り調整ができ、迅速かつ容易に着脱が可能な BOA システムを有すること。スチール製のリールは 750N 以上の引裂強度を持つこと。
- 13) EN ISO 19954 に準拠し、30～35℃で 30 分間、防火長靴全体を洗濯することが可能であること。
- 14) EN15090:2012 に準拠し、25 回の洗濯をすることが可能であること。

## (2) サイズ

EU サイズ	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
JP サイズ	24.0 cm	24.5 cm	25.0 cm	25.5 cm	26.0 cm	26.5 cm	27.0 cm	27.5 cm	28.0 cm	29 cm	30 cm	31 cm

## (3) その他

- ①本仕様に定めのない事項については協議を行い指示を受けること。
- ②防火靴には、「令和 7 年度 石油貯蔵施設立地対策等交付金施設」と強固なシール等に表示すること。

### 3. 外觀圖

(1) 圖 1



(2) 圖 2



## < 墜落制止用器具について >

### 1. 適用範囲

この墜落制止用器具は、全般にわたって十分な検査がなされ、この仕様書の全てを満足するものとし、厚生労働省平成 31 年告示第十一号「墜落制止用器具の規格」に適合した「OT-FR3NC-130-SSO-NB」について定める。

### 2. 表示

1. 見やすい箇所に下記内容が表示されていること。

#### 【墜落制止用器具】

(1) 種類 (2) 製造業者名 (3) 製造年月

#### 【ランヤードのショックアブソーバ】

(1) 種類 (2) ショックアブソーバの種別  
(3) ショックアブソーバの使用可能な質量  
(4) 最大自由落下距離 (5) 標準的な落下距離 (6) 製造年月  
(7) 製造業者の名称又はその略号

### 3. 仕様

#### 1. 形状及び寸法

形状及び寸法は付図のとおりとする。

#### 2. 使用材料

- 1) 各部の材料は、JIS T8165 (2018)「墜落制止用器具」の規格によるほか、下表のとおりとする。
- 2) 金属部分は、耐食性のもの、又は錆止め加工を施したものを使用するものとする。

部品名	主要材料
胴ベルト	ナイロン原糸を用いた平二重織とする。
バックル	バックルの主要構成部材は、JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) に規定する材質と同等以上の機械的性質を有したものと する。
ロープ	ナイロン原糸を用いたものとする。
ショックアブソーバ	ナイロン又はポリエステル原糸を用いたものとする。
カラビナ	ステンレス製とする。
環類	JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) に規定する材質と同等以上の機械的性質を有したものと する。

#### 4. 構造

##### 1) 構造一般

身体に装着し保持するための胴ベルトに、落下時に墜落を制止するためのランヤードを接続した構造とし、胴ベルトは着用者に適切に適合させることができるものとする。墜落を制止するときに、着用者の胴部が胴ベルトによって適切に支持される構造とする。ランヤードの長さは、コネクタ及びショックアブソーバを含め1700mm以下とする。

##### 2) 各部の構造

部 品	構 造
胴ベルト	ベルトの幅は50mm、厚さは2.0mmを標準とする。
バックル	ベルトの一端に取付け、ベルトを容易に装着できるものとする。 ベルトの長さを自由に調節できるものとする。 使用中、任意の箇所でも保持することのできるものとする。 差し込み板を本体に差し込むことで連結できるワンタッチ式バックルであること。差し込み板を抜くには、本体中央部の突起ボタンを押し込んだままプレートを引き上げた状態で、左右の解放レバーを同時に押し込まないと解放できない3重安全装置付であること。
ロープ	φ11mmのダイナミックロープとする。 ランヤードを構成するロープは、よりむら、きず、その他の欠陥がないこと。
ショックアブソーバ	衝撃荷重の負荷に対し必要に伸展したとき、ランヤードなどから脱落しないこと。 端末部はコネクタ等に連結できるものであり、金属部品と連結する場合は摩擦を防止するための措置を講じるものとする。 衝撃を吸収する部分が露出しないよう、保護カバーなどを備えること。
カラビナ	かぎ部は二重の外れ止め装置（安全環付）を備えたO型カラビナとする。 ロープの横ズレを防止する為、固定ブッシュを取付けたものとする。
環類	表面は平滑であり、角の部分は円滑であること。

#### 5. 性能

墜落制止用器具の性能は次のとおりとする。

項 目	JIS T8165 (2018)		規 格 値
胴ベルトの強さ	6.1.2 a	8.1.2	15.0kN 以下の力で破断しないこと

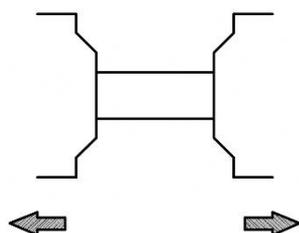
バックルによる結合部の強さ	6.1.2 b	8.2.3	8.0kN以下の力でベルトなどの離脱、破損による結合の解除がないこと。
環取付部の強さ	6.1.2 c	8.2.4	11.5kN以下の力で破断しないこと
ロープなどの強さ	6.1.3 a	8.1.3	15.0kN以下の力で破断しないこと。
コネクタの強さ	6.1.3 b1	8.1.4	11.5kN以下の力で破断しないこと。
コネクタの外れ止め装置の耐力試験(縦荷重)	6.1.3 b2	8.1.5	外れ止め装置に1.0kN荷重負荷時、外れ止め装置と、かぎ部先端との隙間にφ3mmのピンゲージが通らないこと。
ショックアブソーバの作動力及び強さ	6.1.3 c	8.1.7	1.5kNの力を2分間加えたとき作動しないこと。 15.0kN以下の力で破断しないこと。
環の強さ	6.3	8.1.8	11.5kN以下の力で有害な隙間の発生や破断がないこと。
ショックアブソーバの耐衝撃性及び関連性能(130kg)	6.4.3	8.3.4 a	落下させたとき、重すいを保持すること。衝撃荷重4.0kN以下、ショックアブソーバの伸び1.2m以下であること。また、落下体が制止される前に、衝撃吸収機能を失わないこと。
胴ベルト型組合せ品の耐衝撃性及び関連性能(130kg)	6.4.8	8.3.9	落下させたとき、砂のうを保持すること。この時、ベルトの著しい裂け、分離、バックルの破損又はバックル結合部の離脱がないこと。衝撃荷重4.0kN以下、ショックアブソーバの伸び1.2m以下であること。

## 6. 試験 (JIS T8165 (2018) 「墜落制止用器具」の規定番号)

### 5-1) ベルトの引張試験 (6.1.2a/8.1.2)

試験片両端の全幅をチャック、その他の方法でつかみ、試験部分の間隔を

200mm以上として引張試験機によって力を加える。

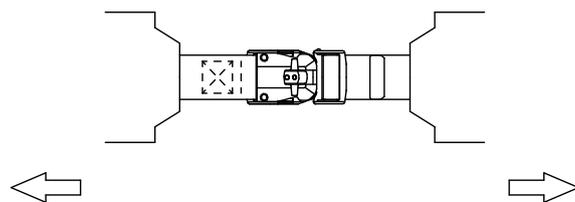


ベルトの引張試験 (形状は一例を示す。)

5-2) バックルによる結合部の引張試験 (6.1.2b/8.2.3)

試験片の全幅をチャック、その他の方法でつかみ、試験部分の間隔を 300mm

以上として、引張試験機によって力を加える。

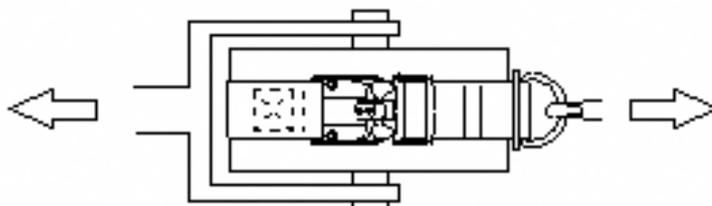


バックルによる結合部の引張試験(形状は一例を示す。)

5-3) 環取付部の引張試験 (6.1.2c/8.2.4)

直径 250~300mm、幅 100mm 以上のドラムに胴ベルトを付け、

環に引張用金具をかけ、引張試験機によって力を加える。

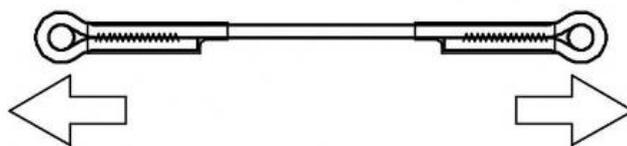


環取付部の引張試験(形状は一例を示す。)

5-4) ロープ又はストラップの引張試験 (6.1.3a/8.1.3)

アイ加工部分を含めた製品のロープ又はストラップ全体を試験片とし、

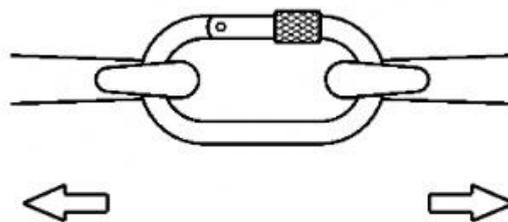
引張試験機によってそれらの両端に力を加える。



ロープ又はストラップの引張試験(形状は一例を示す。)

#### 5-5) コネクタの全長方向の引張試験 (6.1.3b1/8.1.4)

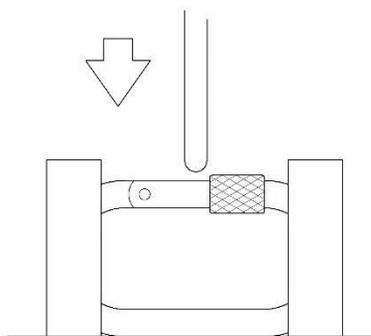
コネクタのかぎ部と、ランヤードの通し孔とに引張用金具をかけ引張試験機によって力を加える。



コネクタの引張試験 (形状は一例を示す。)

#### 5-6) 外れ止め装置の耐力試験 (縦荷重) (6.1.3b2/8.1.5)

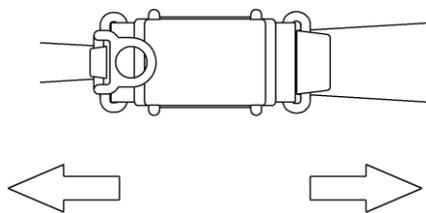
開口部を上向きにして固定ジグにコネクタをセットし、外れ止め装置に対して垂直に、かつ、できるだけかぎ部先端に近づけた位置で、1.0kN の力を加える。耐力試験ジグの先端部の丸みの半径は  $R5 \pm 0.5\text{mm}$  とする。



外れ止め装置の耐力試験 (形状は一例を示す。)

#### 5-7) ショックアブソーバの作動力及び引張試験 (6.1.3c/8.1.7)

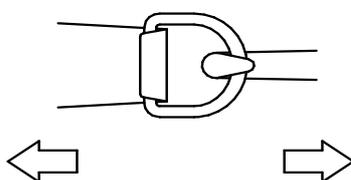
ショックアブソーバの両端に引張用金具をかけ、引張試験機によって 1.5kN の力を 2 分間加えショックアブソーバが作動していないか確認する。その後、完全に伸び切るように力を加える。



ショックアブソーバの引張試験（形状は一例を示す。）

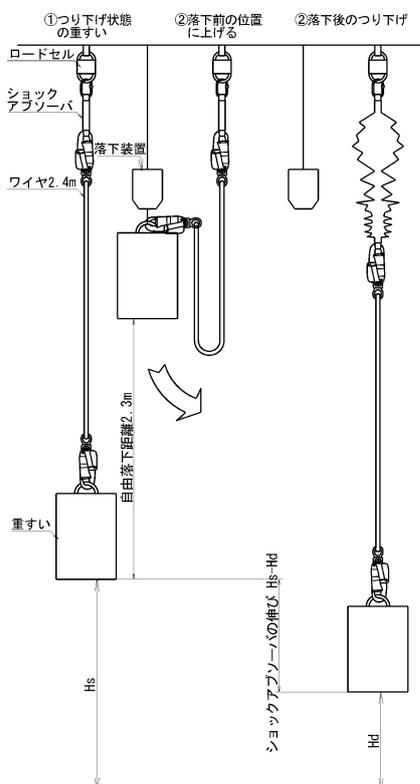
5-8) 環の引張試験（6.3/8.1.8）

環に引張用金具をかけ、引張試験機によって力を加える。



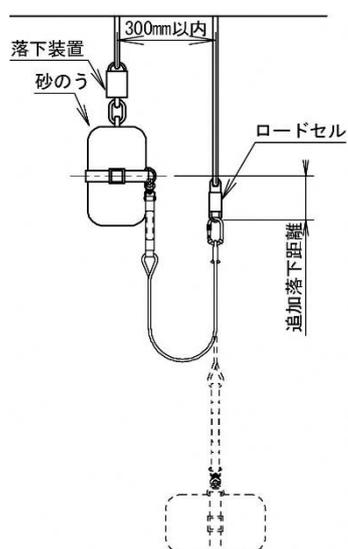
環の引張試験（形状は一例を示す。）

5-9) ショックアブソーバの耐衝撃製及び関連性能の試験手順（6.4.3/8.3.4a）  
 ショックアブソーバの試験手順は、JIS T8165(2018)「墜落制止用器具」の  
 8.3.4 項に  
 より行う。



ショックアブソーバの落下試験（形状は一例を示す。）

- 5-10) 胴ベルト型組合せ品の耐衝撃性及び関連性能の試験手順 (6.4.8/8.3.9)  
胴ベルト型組合せ品の試験手順は、JIS T8165(2018)「墜落制止用器具」の  
8.3.9 項により行う。



胴ベルト型組組合せ品の落下試験 (形状は一例を示す。)

#### 6. その他

- 1) D環及びD環止めは別に各1個付属すること。
- 2) 墜落制止用器具には、「令和7年度 石油貯蔵施設立地対策等交付金施設」と強固なシール等で表示すること。

## < 防火手袋について >

### 1. 総則

#### 1. 目的

この仕様書はうるま市消防本部が購入する防火手袋（以下「手袋」という）について必要な事項を定めることを目的とする。

#### 2. 手袋の条件

この手袋は火災発生建物への屋内進入を実施する消防隊員がより安全に消火活動等の目的において求められる、手部の切創事故防止及び作業性を考慮し、防火性・防水性・耐久性に優れた機能を有するとともに、総務省消防庁通知（令和4年4月15日付消防消第113号）により示された「消防隊員用個人防火装備に係るガイドライン（改訂版）」に定める性能等に適合するものとする。

### 2. 材質及び規格

別表のとおり。

### 3. 構造

本手袋は以下の3層構造とする

#### ① 外層生地

アラミド繊維の交編ニット（パラ系・メタ系）生地を使用し、掌部には牛革製の補強生地を縫い付け、たるみ・ずれ防止のステッチを施す。各指先補強は1枚の生地で指掌部から爪部まで巻き上げる様に縫製し、指先側面も補強すること。負荷のかかる親指部には更に二重の補強をすること。

#### ② 中間防水層

防水層の外層生地との固定は、ずれ及び抜け落ちがないよう、外層生地の掌側裏とは全面熱圧着し、甲側裏とは部分熱圧着とし、著しく操作性が低下することなく、手指の出し入れの際に裏返らないような施工法とする。防水層は指先から袖裾部分までであることとし、両面テープの使用は仮止めに関し限り使用しても良いこととする。内層生地との固定も外層生地との固定と同様に熱圧着で固定し、内層が抜け落ちることの無いようにする。

#### ③ 内層生地

繰り返しの着脱及び使用に耐えられる強度のある綿製のニットを使用すること。

#### 4. 仕様

2. 手袋本体は指部平側に縫い目の無いガントレット裁断とし、手の平部等にたるみの出ない立体縫製とする。
3. 袖裾のカフス部分外層生地裏側に 60mm 幅のパイルゴムを縫い付け手首を保護し、フィット感を持たせる。
4. 手袋の小指側袖口に本体生地で三角状のマチを取り付けること。
5. 甲側中央部飾りに本体生地にて二重補強して、中間にクッション材として耐熱性に優れた PBI ニットを挟み込むこと。
6. 甲側中央部の飾りと袖口の間で 2 段で絞りゴムを縫い付ける。
7. 袖裾のカフス部内側には、面ファスナーベルトにより脱着し易い構造とすること。
8. 外観・掌補強形状、縫製方法については別図を参考にすること。

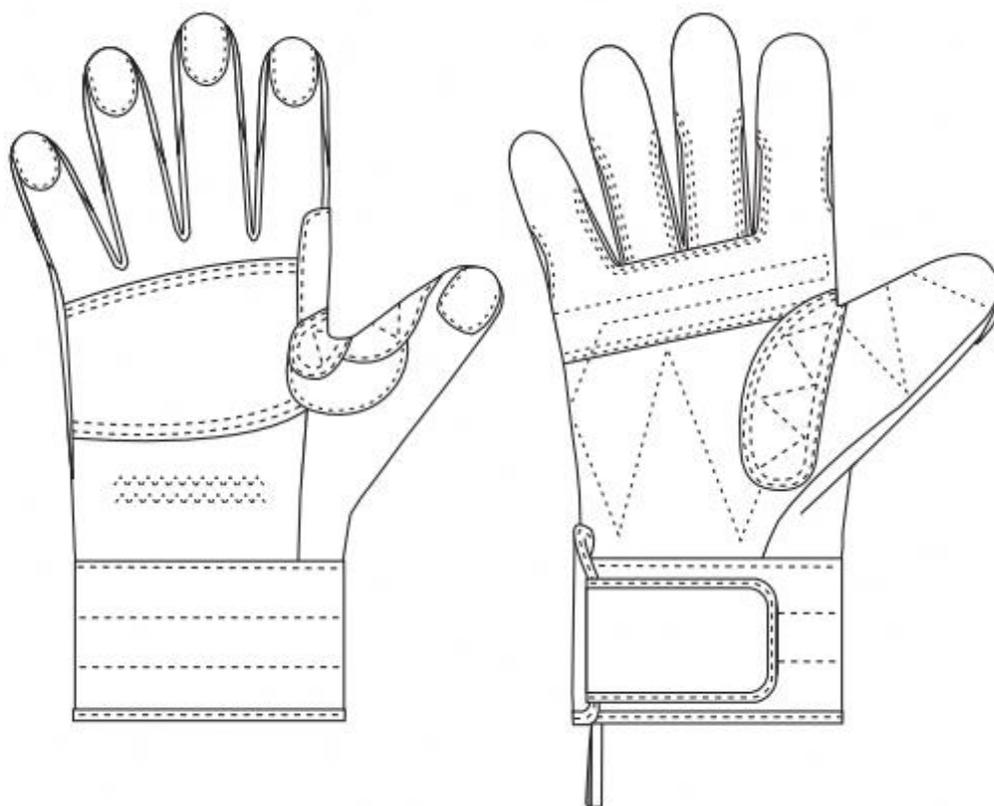
#### 5. その他

1. 袖裾のカフス受側の面ファスナー位置の内層生地にサイズ表示と所属・氏名の書き込める氏名札を縫い付けること。
2. サイズは SS・S・M・L・LL・3L の 6 サイズとし、別図の寸法表を参考にすること。
3. 1 双毎にサイズ表示したアルミ蒸着袋に入れて納入すること。
4. 袖裾のカフス部裏側にカラビナ等で吊り下げできるようフックループを取り付ける。
5. 同等品申請の場合は事前に仕様書通りの全サイズの見本品と試験成績書を提出し、担当者の承諾を得て応札すること。  
※提出の試験成績証明書は本件手袋と同素材・同仕様の製品の物に限る
6. 本手袋の製作にあたり、工業所有権等に関する法律に抵触する問題及びその他の問題が生じた場合は、受注者の責任においてこれをすべて解決すること。
7. 防火手袋に、「令和 7 年度 石油貯蔵施設立地対策等交付金施設」と綿布または同等品の布で表示すること。

別表 材料及び規格一覧

部品名	材料及び規格等	色相
本手袋外層生地	表面：パラ系アラミド繊維(20/1)、 裏面：メタ系アラミド繊維(20/1)の交編ニット	紺色及び 橙色
本手袋中間防水層	透湿防水フィルム製サイトスグローブ	白色
本体内装生地	綿サーフニット	白色
甲飾り	本手袋外層生地と同じ	紺色及び橙色
甲クッション	PBI ニット (混紡率・組織は下記のとおり)	黒色
	PBI：20%、パラ系アラミド：50%、 難燃レーヨン：29.5%、有機導電繊維：0.5%	
	組織：18 ゲージ フライス編みニット 糸番手：1/48 重量：210 g/m <sup>2</sup>	
掌補強	牛セラミックレザー (裏側使い) 厚さ：約 0.7~0.9mm	茶色
カフス部分裏側ゴム	パイルゴム(60mm幅)	紺色
手首絞り	帯ゴム(13~15mm幅)	指定無し
袖口開封止め	ベルト側：面ファスナー(フック)48×85mm	紺色及び 橙色
	カフス受側：面ファスナー(ループ)45×68mm	
縁取りテープ	表面：ポリウレタン 100%	黒色
	基布：ナイロン 100%	
縫製糸	パラ系アラミド繊維製糸 (30 番)	黄色

別図

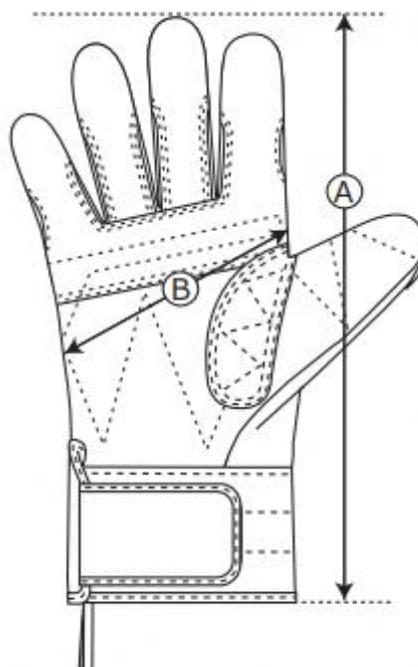


\* 寸法表

単位cm

箇所 サイズ	A手長さ	B手幅
SS	24.0	11.0
S	25.0	11.5
M	26.0	12.0
L	27.0	12.5
LL	28.0	13.0
3L	29.0	13.5

許容差3%



## < ヘッドライトについて >

### 1. 総則

#### 1. 目的

この仕様書はうるま市消防本部が購入するヘッドライトについて必要な事項を定めることを目的とする。

#### 2. ヘッドライトの条件

本体とバッテリーの一体型で明るさ 600 ルーメン以上、耐水性能 I P 64 準拠以上の性能であること及び電源方式として U S B 充電機もしくは乾電池が使用可能であること。

#### 3. 参考型式

以下のいずれか、または同等品以上とする。

なお、メーカーにて最新の後継機がリリースされている場合は、そちらを優先することを可能とする※別途事前に当本部と協議すること

・ G E N T O S H L P - 2 5 0 4

## < 防火服収納バッグについて >

### 1. 総則

#### 1. 目的

この仕様書は、うるま市消防本部が購入する防火服等収納バッグについて必要な事項を定める。この防火服等収納バッグ（OSB-BL-1）は、十分に品質管理を行った良質の材料を使用した仕上がりが優良な製品であることとする。

#### 2. 品名

防火服等収納バッグ OSB-BL-1

#### 3. 規格

(株)服部商店製 主生地：ナイロン

#### 4. 色

防火服等収納バッグ（OSB-BL-1）の色相は黒色とする。

## 5. 仕様

D (奥行) 380mm × W (幅) 560mm × H (高さ) 400mm / 85ℓ  
水抜きメッシュハトメ × 10か所 (上部4か所、側面4か所、底2か所)  
平行ファスナー × 2か所  
※別図①参照

## 2. 別図①



## < ハンドライトについて >

### 1. 総則

#### 1. 目的

この仕様書は、うるま市消防本部が購入するハンドライトについて必要な事項を定める。

#### 2. 品名

以下のうち、いずれか又は同等品以上であること。

- ・ STREAMLIGHT サバイバー  
(サバイバー用スモークカッタープラグ付)
- ・ STREAMLIGHT サバイバーX Div.2  
(サバイバー用スモークカッタープラグ付)

3. 規格

- ・明るさ250 高光度ルーメン以上
- ・米国防爆モデル
- ・耐水性能 I P X 7 準拠以上 の性能であること。

【 別表 1 】

	品名	数量
1	防火衣（上衣）	1 3 0
2	防火衣（ズボン）	1 3 0
3	冷却剤	3 9 0
4	しころ	1 3 0
5	防火靴	1 3 0
6	墜落制止用器具	1 3 0
7	防火帽（ヘルメット）	1 3 0
8	防火手袋	1 3 0
9	防火フード	1 3 0
10	ヘッドライト	1 3 0
11	防火服収納バッグ	1 3 0
12	ハンドライト	1 3 0

【 別表2 】

所 属	ワッペン色
具 志 川	赤
石 川	緑
与 勝	青
平 安 座	水色
大隊長（4）	別途協議
中隊長（9）	”
小隊長（15）	”

## 第1章 総則

- 1 本仕様書は、うるま市消防本部（以下「当本部」という。）が購入する「消防団用防火衣」（以下「防火衣」という。）について、必要な事項を定める。
- 2 本仕様書に明記されていない点は、製造会社公表の標準仕様によるものとする。
- 3 受注者は、製造等に関し、特許その他権利上の問題が発生した場合には、その責任を負うこと。
- 4 本仕様書について疑義が生じた場合又は変更を必要とする場合は、事前に当本部と協議の上、承認又は指示を受け、不明な点については当本部担当者に確認し十分熟知した上で契約するものとする。
- 5 契約後に生じた疑義は全て当本部の解釈に従うものとする。
- 6 受注者は、契約後、仕様書詳細について当本部と打ち合わせを行い、承認を得て着手すること。
- 7 納期及び納入場所は、下記のとおりとする。
  - (1) 納 期：令和8年2月27日（金）
  - (2) 納入場所：うるま市消防本部
- 8 保証期間は納入後1年とする。ただし、保証期間後といえども、製造不良あるいは、材質不良に起因する不都合箇所が発生した場合は、無償修理、取替えを行うこととする。
- 9 規格、数量：第3章及び別表のとおり

## 第2章 提出書類

受注者は、納品時に試験証明書及び防災製品認定書または同等以上の証明書を提出すること。

## 第3章 概要・規格

### 1 概要

防火衣は、コート型上衣とロング長靴で構成された上下式とし、消防団の装備の基準（昭和63年消防庁告示第3号）に準拠するものとする。

防火手袋・防火帽についても同様とする。

### 2 規格

#### (1) 防火衣（上衣）

##### ア 仕様

表生地：ND-1000（メタ系アラミド繊維95%、パラ系アラミド繊維5%）

表：超撥水加工 裏：透湿防水加工

中衣生地：NX-4069（メタ系アラミド繊維100%）シルバー加工

中衣・背・肩あて：ケブラーフエルト

蛍光生地：KNPL-36YL60（アクリル系混紡生地）蛍光イエロー

肩あて KE-2018 (ケブラー®ニット)  
衿：折衿・立衿兼用型、チンストラップ  
前合わせ：ファスナー、前立て (マジックテープ、ドット釦止め)  
胸ポケット：雨蓋 (2分割)、マチ付ポケット  
腰ポケット：雨蓋、マチ付ポケット  
ベルト通し：4箇所 (左脇2重構造)  
背：アクションプリーツ付き  
袖：脇マチ付き3枚袖、袖口水切部リブニット  
反射布：胸廻り、裾廻り、肩部、上腕部、袖口部  
中衣：袖付型、着脱型

イ 背中部に「うるま市消防団」と黒系統の反射文字で剥がれにくいよう印刷等に表示すること。文字の寸法については1列目一文字縦7.5cm×横7cmとする。

ウ 上衣左右腰部にロープ入れポケット (蓋付き面ファスナー止め) を取付けること。

エ 衿内側中央下部に十分な強度をもった衿吊りを取付けること。

オ 各部に反射材を用い、視認性を向上させること。(反射材の使用箇所については別途協議する)

## (2) ロング長靴

### ア 仕様

色相：ネイビー

底部：踏抜防止板入り

つま先部：先しん入り

側面：ケブラー®フェルト入り再帰反射テープ付

## (3) 防火帽

ア 仕様：FD9又は同等品以上

イ ダイヤルラチェット方式により、頭回りに応じて着装時にも容易にサイズ調整が可能であること。

ウ 顔面保護板を有し、引き出した状態でぐらつき防止のロック機能を設けること。

エ ヘルメット両側面に黒系統の反射文字により「うるま市消防団」と印刷等に表示すること。

オ アラミド製のしころ (ロング) を付属すること。

## (4) 防火手袋

### ア 仕様

色：ネイビー

素材：本体甲部：ケブラー®繊維、ノーマックス繊維のWニットをボンディング  
本体掌側：ケブラー®繊維×ノーマックス繊維のWニット  
補強革：掌部補強：牛セラミックレザー0.7～0.9 mm厚  
補強材：甲クッション：ケブラー®繊維製フェルト（3 mm厚）

#### 第4章 表示文字

- 1 防火衣（上衣）・しころ・防火手袋（両手）に、「令和7年度 石油貯蔵施設立地対策等 交付金施設」と綿布または同等品の布で表示すること。
- 2 ロング長靴（両足）・防火帽（ヘルメット）に、「令和7年度 石油貯蔵施設立地対策等 交付金施設」と強固なシール等で表示すること。

#### その他

- 1 納入にあたっては、指定場所に納品すること。
- 2 納入にかかる諸経費及び納入までに発生した事故については、如何なる事情があっても納入業者がその責任を負うものとする。
- 3 本仕様に記載されていない事項については、製造会社標準仕様とする。
- 4 納入後、取り扱い等について、説明をすること。
- 5 この仕様書について疑義が生じた場合は、担当者と事前に協議を行い、決定するものとする。

#### 別表

No.	品 名	数 量
1	防火衣（上衣）	20
2	ロング長靴	20
3	防火帽（ヘルメット）	20
4	しころ	20
5	防火手袋	20